



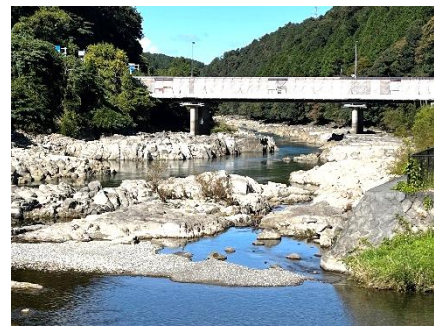
2022.10.27 第27号

森田 博

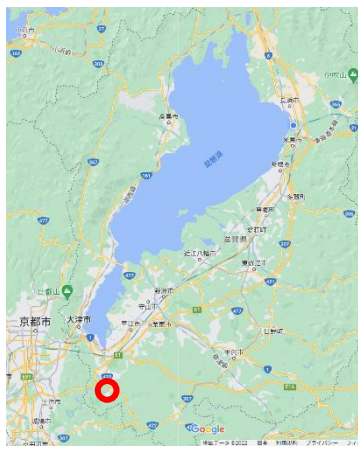
ネット検索と図書館資料の両立
教材をハイブリットで

ネット検索に頼りすぎない～実写と図書館資料～

10月25日(火)の午後から大津市立大石小学校へ科学研究発表会(動画審査)に行ってきました。往復4時間くらいかかる瀬田川の先っちょくらいにある小学校でした。とても遠かったです。大石小学校は、瀬田川が目の前で、思わず写真を撮ってきました。ちょうど、5年生の「流れる水のはたらき」で、上流、中流、下流による河原の様子を比べる学習をしているので、これは使えると思いました。それがこちらです。



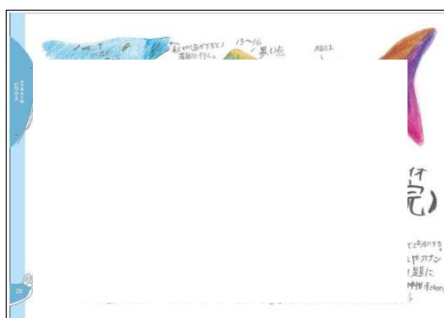
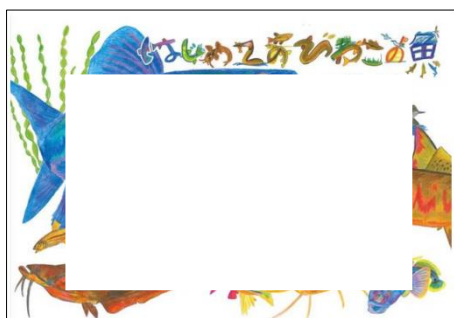
琵琶湖へ注ぐ一級河川は117本もあります。琵琶湖の水がなくなることはないはずですが、瀬田川は、琵琶湖で唯一外へ出ていく「自然流出河川」です。上流は琵琶湖側になります。下流は、京都で宇治川、大阪で淀川となります。姉川や草野川の上流というと伊吹山や余呉の位置。瀬田川とは逆になります。このことは非常におもしろく授業になります。写真の場所は、ここです。つまり、写真は、瀬田川の中流ですが、姉川の上流のような、流れが速く、川幅も狭く、大きな角の取れた丸い石が転がっています。流れが速い場所が上流と決めるのは考えようです。ですから、上流だからこんなはたらきをしていると考えるのではなく、「水の流れるはたらきによって」川の様子が変わると考えた方がよいと思います。



TV 番組から図書館資料



関西情報ネット番組「ten.」を帰りのナビでたまたま見ていたら、琵琶湖の魚の絵本を書いた著：黒川琉伊さんが特集されていました。滋賀県大津市の方で、2歳から魚に興味を持ち、5歳で魚の絵をたくさん描くようになり、10歳でラムサールびわっこ大使、13歳で「海のキッズサポーター」として、全国プレゼン大会に滋賀県代表で出席されたそうです。その方が出版された絵本が本当にすごい。その番組を見た後すぐに、長浜図書館で絵本を貸出予約しました。現在中学3年生の琉伊さん。琵琶湖博物館へ何度も通ったり、小さいころからあまりに何度も琵琶湖付近で



をとりに行くのを母親が感心され、琵琶湖の近くに家を建て、家族で引っ越したりされるほどの琵琶湖愛。こんなにすごい子が描いたんだからすごい絵本なんだろうなと思い借りてきました。

特定外来生物に指定されているブラックバスやブルーギルですらこんなに色鮮やかに表現されています。驚きです。



まず、漢字で表せることも知りませんでした。「大口(黒)鱒」とかいて「オオクチ(ブラック)バス」。「青鯰」と書いて「ブルーギル」。これはすごいです。40歳手前。初めて知ることに少年だったあのころのような感覚に戻ります。今の小学生だってきっとそう。こうした教材を授業で活用しながら、子どもたちの自然や生き物に対する興味関心を与えているという教員の仕事に誇りを感じます。今回は、逆ですね…。中学3年生の生徒に、40歳手前の教師が教わってます。そして、この絵本の出版会社は、木之本町の大音「能美舎」!? 丘峰喫茶店内に事務所があるそうです。こんな身近に、いろいろなことが起きているんです。これは知っておきたいです。この絵本は、しばらく理科室に置いています。



黒川琉伊さんのTwitter「るい魚」

6年生「変わり続ける大地」

火山の動画を見る。ネット検索で土地の変化の写真を見る。これだけでは、まだまだ物足りず。終末の学習には、「防災教育」が付き物になっている理科教育。10月28日(金)と11月1日(火)の2日間で、大阪ガスさんの出前授業を設定しました。夏休み前から申し込み、いよいよ明日です。心配していた学習進度もピッタリ合いました。地層のでき方や、地震や火山噴火で土地が変化することを学び終わりました。楽しみです。

大地の変化についてピンポイントな図書館資料はないかと探すと、ありました。教科書には載っていない土地の変化を補足で紹介したいと思います。

あの富士山も、いつ噴火してもおかしくない時代に入っているそうです。

2014年の岐阜県御嶽山噴火のニュースや、「歩道スクープ SP 激動! 世紀の大事件9」というドキュメンタリー番組がこの前あったところです。

